

○ 栗盛須雅子^{1,2)}、福田吉治³⁾、星旦二⁴⁾、澤田宜行²⁾、山田大輔²⁾、大田仁史²⁾

¹⁾ 茨城キリスト教大学看護学部、²⁾ 茨城県総合健診協会茨城県立健康プラザ、

³⁾ 山口大学医学部、⁴⁾ 首都大学東京大学院都市環境科学研究科

【背景】「次期国民健康づくり運動プラン」の中では、引き続き健康寿命の延伸が目標として盛り込まれている。そのような中、従来の命の量を示す指標だけでなく、健康寿命（余命）など、高齢者の健康の質を加味した指標による評価が必要である。本研究は、沖縄県と茨城県の65歳以上の健康指標の比較を行い、平均余命ではみえない沖縄県と茨城県の健康度を比較し、両県の施策の評価を行う基礎資料を得ることを目的とした。

【方法】比較は平均余命（2005年）、健康余命のひとつである障害調整健康余命（Disability-adjusted Life Expectancy: DALE）、その算出過程で算出される障害の割合である加重障害保有割合（Weighted Disability Prevalence: WDP）、介護度別の認定者数、および平均余命の中でDALEの占める割合で行なった。WDPは性・年齢階級別・介護度別の認定者数（2007年）、性・年齢階級別人口（2007年）、および介護度別の効用値を用いて算出した。DALEはWDPと完全生命表（2005年）を用いてSullivan法で算出した。要介護認定率（2006年）は軽度要介護認定率（要支援、要介護1）と重度要介護認定率（要介護2～5）に区分した。

【結果】平均余命は沖縄県が男女とも1位であり、茨城県は男性39位、女性42位である。DALEは沖縄県は男性3位、女性6位であり、茨城県は男性33位、女性28位と、沖縄県は平均余命より順位を下げ、茨城県は上げていた。WDPは、沖縄県は男性41位、女性31位、茨城県は男女とも2位であった。軽度要介護認定率は、茨城県は男女とも1位であり、重度要介護認定率も男性2位、女性5位と健康度は高く、沖縄県はそれぞれ、男性14位、女性24位、男性45位、女性38位と、特に重度要介護認定率は下位に属していた。また、平均余命の中でDALEの占める割合は茨城県が男女とも1位、沖縄県が男女とも47位と対照的な結果となった。

【考察】茨城県は余命が短い障害をもつ割合が低く、沖縄県はその逆であった。また、茨城県は要介護認定者が少なく、沖縄県は特に重度要介護認定者が多いことが明らかになり、高齢者の健康水準が対局にあることが明らかになった。両県はそれぞれの健康規定要因を分析し、情報交換を行い、それぞれの利点を施策に取り入れることで、高齢者の健康水準の向上に寄与すると考えた。

表 茨城県と沖縄県の高齢者健康指標の比較

	茨城県		沖縄県	
	男性	女性	男性	女性
65歳平均余命	17.99 (39)	23.00 (42)	19.16 (1)	24.86 (1)
65歳DALE	16.82 (33)	20.19 (28)	17.37 (3)	20.61 (6)
65～89歳年齢調整WDP	40.72 (2)	49.98 (2)	52.40 (41)	60.39 (31)
65歳以上年齢調整軽度要介護認定率	41.32 (1)	60.73 (1)	52.65 (14)	90.63 (24)
65歳以上年齢調整重度要介護認定率	64.81 (2)	73.93 (5)	87.44 (45)	88.24 (38)
平均余命の中でDALEの占める割合	93.48 (1)	87.29 (1)	90.66 (47)	82.91 (47)

注（）：健康度の高い順の全国順位